



救助の仕事がないときは  
何をしているのかな?

消防署に入署すると、まず消防学校（岩城町）において、六ヶ月間寮生活をしながら「初任科」を勉強するそうです。これは消防マンとしての基本ランインといったところでしょうか。消防学校を終えてから配属後の勤務は、二十四時間の隔日勤務だそうです。もちろん労働時間は調整しているようですが、それでも、二十四時間とは頭の下がる思いです。夜だって仮眠程度でしょうし……。

す。ただ有事を待つのではなく、普段からいろいろ訓練を行つてゐるようです。日常勤務として、毎日朝と夕方に全車を対象に十五から二十分ぐらいエンジンをかけて、始業点検、器具点検を。また、週に一回は試運転をするそうです。年に何回かの訓練としては、「器具・器材の点検、使い方」(毎月)、「車からの救出訓練」、「水難救助訓練」、「訓練塔での降下、とほん訓練」、「地下、トンネルからの救出訓練」、「ほふく訓練」などです。訓練ではないのですが、そのほかに「玉掛け技能」、「小型移動式クレーン」、「ガス溶接技能」、「潜水士」、「小型船舶(四級)」などの技能・資格取得のための講習会への参加などもあるようです。

## 実地訓練

### その厳しさ、真剣さに感服

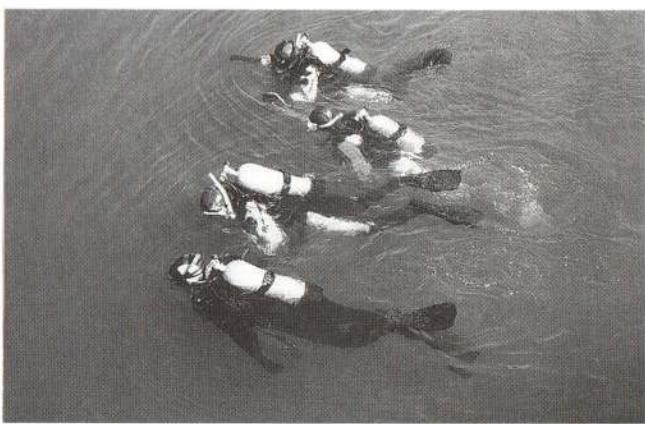
十月初旬に行われた実際の訓練を見学させてもらいました。最初に△交通事故を想定した車からの救出訓練▽の現場に行きました。車がつぶれて、自力で脱出できない人を救出する訓練です。スプレッダーとカッターという器具を使い、ドアを車から切り離したり屋根を押し開いたりします。また、運転席で身動きできない人を想定し、角材やチエーンを使ってダッシュボードごとハンドルを起こし、すき間を作る訓練もしていました。

救助隊は  
遊んでた方がいい

るため走つたり、夏になればよくプールで泳いだりするそうです。

これらの取材を通して感じたことは、私たち市民の背後を守るやしさと、火事が無くても遊んでいるのではないということでした。また、私の文章力では、この感動を思うように伝えられないやしさも感じました。

最後に、ある隊員の言つた忘れられない言葉を紹介して終わります。「訓練は訓練で終わつた方がいいつすよ。火事も事故も何もねえ。大館が平和だつてごどだがら」



この訓練の目的は、器具を使うときの力の入れかたや、どこを開くか、どこを切るかといった技術的な面。それほども大事なことは、令嬢攻克に素

水難救助訓練

引火による二次災害を防ぐため、火花の出ない油圧式の器具を多く使うそうです。救助工作車の中も見せてもらいましたが、無いものは無いというくらい、いろんな器具でいっぱいでした。

次は、下内川の松峰橋付近での△水難救助訓練▽の現場です。潜水訓練では、ウエットスーツを着て、ボンベ式（約三十キログラム）を背負い、川に入りましたが、私は泳げないので、ただただ尊敬するのみです。バディというそうですが、二人で組んで「水面を泳ぐ」、「コンパスを見ないで潜水」、「コンパスを使って潜水」など、いろいろな設定で訓練していました。水中はとても孤独だそうです。だから、お互に合図をし合えるような訓練もするそうです。ただ、組むといつても体はつながないそうです。それは、一人に何かあつたときに、もう一人まで巻き込んでしまうからです。国家試験の潜水士の資格を持つている隊員は、取材時で九人でした。そのほぼ全員が二十代という圧倒的な若さを誇っています。訓練とは別に、基礎体力を付け